

**令和8年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業  
実施計画書**

**活動団体の本事業での活動テーマ  
『森と海を繋ぐ関係人口の創出と  
持続的な環境保全活動の推進』**

活動団体の活動地域：宮城県石巻市牡鹿半島荻浜地区

活動団体名：合同会社もものわ

中間支援主体名：一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン

# 参加団体の基本情報

## 活動団体の紹介

### 合同会社 もものわ

#企業研修 #チェーンソー技術指導 #各種講演活動  
#森林環境ワークショップ #木材関連商品開発

森と人との関係を最適化する「海に良い影響を与える森林業」をテーマに掲げながら、チェーンソー技術指導を軸に、その過程で産出される杉材の加工販売や研修事業等、森林資源を余すことなく活用する森林資源利活用事業を展開している。



## 中間支援主体の紹介

### 一般社団法人 フィッシャーマン・ジャパン

#水産業の担い手採用・育成事業 #水産業のPR  
#水産物の販売・輸出

漁業のイメージをカッコよくて、稼げて、革新的な「新3K」に変え、次世代へと続く未来の水産業の形を提案していく若手漁師集団。

2024年までに多様な能力をもつ新しい職種「フィッシャーマン」を1000人増やすというビジョンを掲げ、新しい働き方の提案や業種を超えた関わりによって水産業に変革を起こすことを目指す。



# 活動団体と地域の紹介

## 【概要】

活動拠点となる石巻市荻浜地区は、東日本大震災により居住エリアの多くが津波による被害を受けた。各種復旧事業には数年を要し、各所に予定されていた復興公営住宅の建設が遅れたこともあり、当初居住していた住民の多くが別の地域へ移住し、**結果として同地域は過疎高齢化が加速度的に進んでいる**。一方で、震災をきっかけに多様な人が集まり、様々な企業や団体が誕生している。

## 【自然環境】

荻浜地区がある牡鹿半島はリアス式海岸のため海と山が隣接しており、山からのミネラルが直接湾に流れ込む地形である。そのため、カキやノリなどの養殖に適した場所であり、水産業が主要産業である。

しかしながら、**ここ5年ほどで漁獲量が減り、魚種の変化や磯焼けが深刻化**している。特に昨年は例年以上に海水温が上昇し、春から今まで獲れていた魚種が獲れなくなり、養殖のホヤやホタテは5～9割がへい死するなど、漁業者も危感を募らせている。

また、各浜の後ろをぐるりと囲む山は、戦後に植えられたスギ林が輸入材の影響で価値がなくなり、手入れがされず荒れているだけでなく、風倒木や土砂の流入により沢が埋まり保水力が低下している。これらの影響により、昔は多く見られたウナギやアユ、サケ、シロウオなどが激減し、湾内の海水温上昇や山からのミネラルの遮断など多くの弊害をもたらしている。**近年はニホンジカの急増により、新芽や下草が食べられ、森林環境がさらに悪化する原因となっている**。



多様なステークホルダー



森の様子



海の様子

## ■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

- ① 地域内外に仲間がいて、ヒト・モノ・カネ・情報が循環する体制の構築
- ② 科学データに基づいた整備による、豊かな里海山の連環の実現
- ③ 水産業やローカルSDGs事業の自走・地域雇用の創出

## ■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

活動団体である（同）もものわの役員は、3名が東京在住で、定期的にオンライン会議を通じて、意見交換をしながら現地社員が活動を展開するスタイルをとっている。

本事業のプラットフォームもこれに近い運用を想定しており、コアとなる現地活動団体を軸にしながら、都市部をはじめ、さらには同じ課題を持った全国の漁村エリアなどとも連携、活動を展開していく。また、専門的な知識の補填やデータ取得・分析については、東北大学をはじめとした研究機関などの専門家と連携を図っていく。

## ■地域の現状と課題

- ・ 正しく整備できれば、豊かな自然資源となるポテンシャルを有している。
- ・ 震災をきっかけに多様な人が集まり、様々な企業や団体が誕生し、根付いている。
- ・ 震災による居住エリアの多くが被害を受け、過疎高齢化が加速度的に進んでいる。
- ・ 山や海などの自然環境の変化（二ホンジカや放置林の増加、海水温の上昇、磯焼け）

## ■ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ① **森里海の連環を題材にした企業研修の開発**  
物理的に山と海が近い地理的特徴を活かし、牡蠣養殖などの水産業と山の関係を一体的に学ぶプログラムを開発する。
- ② **間伐材資源を活用した各種商品の開発**  
各種木工製品や、スギを利用したハーブティーの商品化、販促を推進する。
- ③ **カーボンクレジット創出による事業手法の確立**  
山林整備活動により、グリーンカーボンクレジットの申請を目指す。

## 「杉ハーブティー」の展開

【概要】 杉間伐時に採取した杉の球果から抽出した成分を加工したハーブティーを販売する。

【段階】 流通までの流れを確立済み。  
販売先の拡大を進めている。

【活用している自然資本・地域資源】  
・ 杉間伐時に不要となる球果

【事業により生じたor 生じそうな成果】  
・ 球果の選定作業の委託により、福祉施設との連携も構築できた  
・ 飲食店での販売などによる連携体制が構築された  
・ 国内だけでなく海外の飲食店での取り扱いも実現した

今後の展望  
・ 海外での販売や取り扱いを拡大する  
・ 球果の選別作業の効率化など、製造工程にやや課題があるためこれを改善する

## 森里海の連環を題材にした企業研修の開発

【概要】  
物理的に山と海が近い地理的特徴を活かし、牡蠣養殖などの水産業と山の関係を一体的に学ぶプログラムを開発する。

【段階】 受け入れ件数は徐々に増えている。FJからもものわやはまのねに紹介するパターンもあり、受け入れ体制は構築できた。現状は積極的な受け入れを実施している段階。

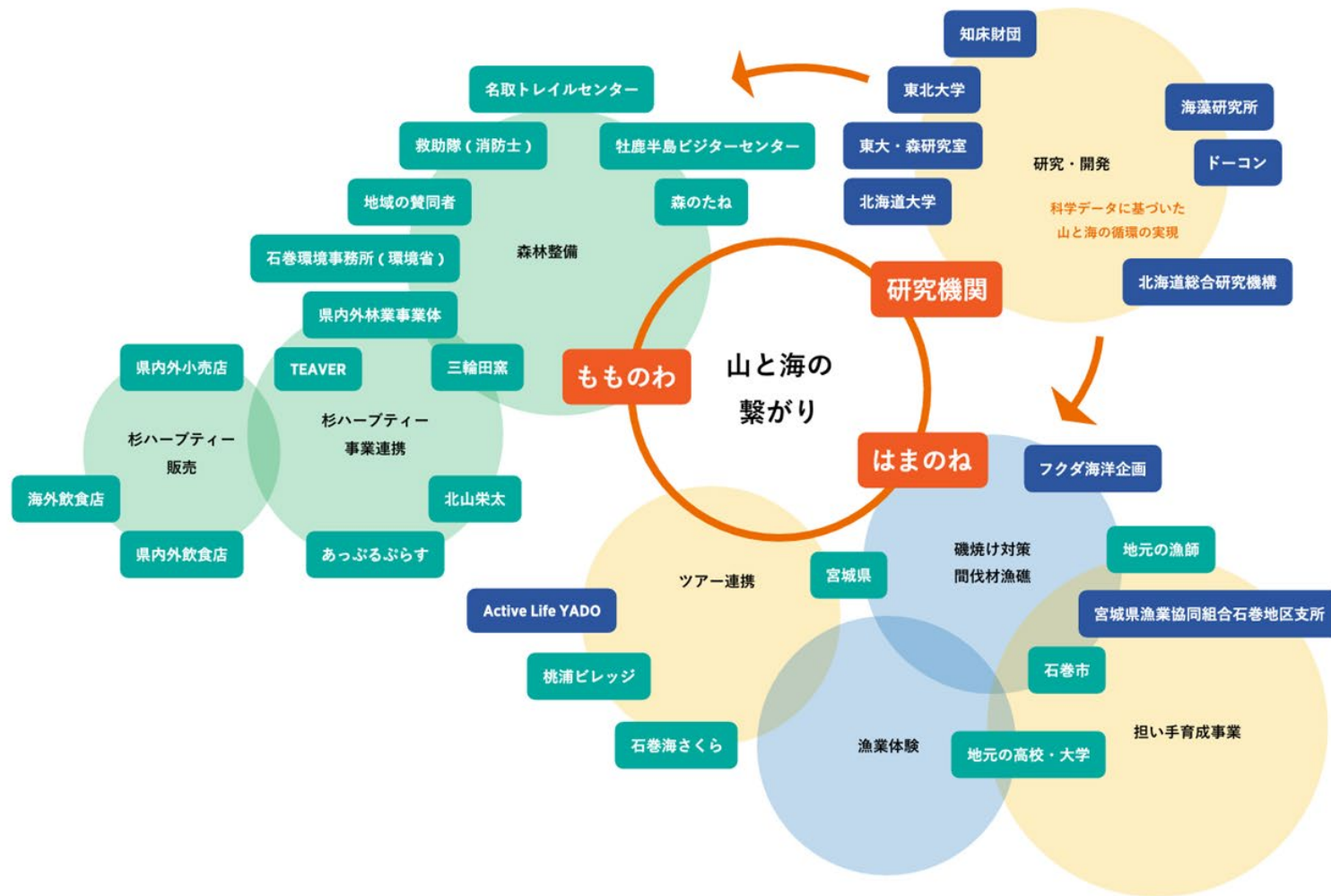
【活用している自然資本・地域資源】  
・ 牡鹿半島の森・海・沢といったフィールド

【事業により生じたor 生じそうな成果】  
・ ネイチャーポジティブ事業に興味のある企業の受け入れも多く、新たな事業連携のきっかけになっている  
・ 地域外の企業を受け入れることで、活動の発信にもつながる

今後の展望  
・ 現在の受け入れ体制のもとで、積極的に研修受け入れを実施する  
・ 受け入れた企業との連携実績を作る  
・ 持続的な利益を生み出す

# (参考) 現状の地域プラットフォーム

## ステークホルダー MAP





# 3カ年状態目標

## ■2027年度末の状態目標

3カ年で確立した事業が、以降も展開できる状態が確立されている状態を目指す。

## ■2026年度末の状態目標

- ・ 事業の効果を定量的に評価し、発信すること
  - 大学や研究機関と連携したデータ収集は順調に蓄積されている
- ・ 10年後を見据えた事業内容の軌道修正
  - 杉ハーブティーの海外展開の実現なども含め、順調に販路が拡大している。
- ・ 地域内で連携した事業が生まれていること
  - 地域のステークホルダーを巻き込みながらの事業展開が実現している。

## ■2025年度末の成果と振り返り

- ・ ローカルSDGs事業の自走化
  - 杉ハーブティー販売が順調に拡大しているほか、企業研修もFJからの紹介を通してものわや一社はまのねで受け入れるなど、事業の体制を構築できた。
- ・ 研究機関と共にモニタリングデータの分析開始
  - 海洋モニタリングについてはデータが蓄積し、分析を始める方向で動いている。
- ・ カーボンクレジットが地域の現場に合致するかの判断がついている
  - 小規模山林に見合う手法を検討中。

# 今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと (ヒト/モノ/カネ/仕組み/ 機能等々)
①	地域のビジョンを描く	2027年3月末	環境整備のため、データの収集を進める。 東北大学や知床財団との連携により手法を確立できたので、引き続きデータ収集を進め、海や森林の管理/整備に役立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データロガーの設置</li> <li>・データ収集及びモニタリング。</li> <li>・トラブル発生時の対処法を確立。</li> <li>・継続的な調査のための予算</li> </ul>
②	事業を生み出す	2027年3月末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業研修の受け入れ数を増やす</li> <li>・杉ハーブティーオリジナルパッケージ参画企業の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に参加いただいた企業などに向け、営業を推進する。</li> <li>・研修を受け入れるための魅力的な場づくり(森林整備など)</li> </ul>
③	体制を整える	2027年3月末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに連携をスタートした名取トレイルセンターとの関係性強化。</li> <li>・学生インターンの受け入れ等若手との関りの強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近自然工法の講習会などを共同で開催しながら、広域での森林整備体制構築を目指す。</li> </ul>

# 中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

## ■中間支援主体の1年間の支援目標

地域のステークホルダーを巻き込んだ事業を展開し、さらに関係性を深めている状態になること。  
地域外との交流が増え、地域のビジョンがさらに明確化され、地域内で共有されていること。

## ■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	◎議論・かかわりの活性化 活動が活発になるにつれてステークホルダーが増加することが予想されるため、地域全体のビジョンを明確にすることが重要である。	R7年度のステークホルダー会議のような場を設け、ビジョンを広く共有し、ステークホルダーから共感を得ることで、目指す方向性を一致させることを努める。
②	◎事業を生み出す すでに「杉ハーブティー販売」や「企業研修」の受け入れといった事業のタネが形成できており、R7年度時点で杉ハーブティーは海外への展開を実現している他、企業研修も台湾やインドからの視察を受入れた。	左記実績を踏まえ、国内外を問わず事業の拡大を図るべく、弊社も研修の受け皿となり、受け入れ拡大の一助となる。
③	◎体制を整える：自治体の総合計画や政策との関わりをつくる 地域課題に取り組む本事業は、自治体の総合計画や政策と共通する点が多いと考えている。	ステークホルダーの拡大や連携強化を図りつつ、新たに加わった地域おこし協力隊の強みを活かし、自治体の自然管理計画や事業との連携を構築していく。

# 中間支援主体のありたい姿

## ■中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

### ◎ 中間支援の機能強化

活動団体だけでなく、他のステークホルダーの業務やビジョンを深く理解することを心がける。

そして、各ステークホルダーにも相互理解の重要性を共有し、各々が連携しやすい体制が自然と構築されることを目指す。

### ◎ ローカルSDGs事業の推進

ローカルSDGs事業を推進し、持続的に地域が自走できる仕組みを作ることを目指す。例えば、スギハーブティーの売上が向上すると、製造に関わるあつぷるぷらす（多機能型事務所）との関わりが増えるほか、新規で人を雇用する可能性が生まれるなど、事業を軌道に乗せることで、ステークホルダーとの連携の幅や、新たな人を巻き込む余地が広がると学んだ。

そのため、事業家の視点を養い、事業に対する的確なアドバイスをできるようになるべきだと考えている。

### ◎ 柔軟なビジョンの構築

現状のステークホルダーだけでは解決が難しい課題に対しては、他地域の力を借りたり、新しい人材を迎え入れたりするなど、地域のプロデューサーのような視点で、柔軟なビジョンを描けるようになりたいと考えている。

その過程で、活動団体以外が主体となる事業を創出しながら、地域全体で課題解決に向かう仕組みを模索していく。

## ■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

石巻には継続的に関わりながら、中間支援のナレッジを整理し、地域のメンバーがアクセスできるように心がける。

団体として目指す水産業の新3K（かっこよくて、稼げて、革新的）を実現するために、

地域循環共生圏の概念を取り入れ、石巻以外の活動地域に地域共生圏づくりの概念を広げていく。

その上で地域間での連携を実現し、共通の課題解決、限られたリソースの最適化を地域を超えて支援していくことを目指す。

